

## 博士課程修了者を送る

理学系研究科委員長 朽津耕三

皆さん、本日はおめでとうございます。めでたく理学博士の学位を受けられたことを心からお祝い申し上げます。いま、一人一人の方に学位記を渡しながら、私は皆さんがこの学位記を取得されるまでに、どんな経緯があったのだろうかと考えておりました。皆さんの中には、抜群の才能に恵まれてずっと順調に研究を進めて来られた方もありましょう。しかし、大部分の方々は自らの研究能力の限界に挑戦し、挫折感・絶望感を何回となく味わい、また学問的・人間的に悩みながら、ひたむきに努力を続けてやっと糸口をつかみ、今日を迎えられたのではないのでしょうか。その意味で、博士の学位記とはその努力と成果に対する勲章のようなものだといえましょう。私自身の経験もそのとおりでした。マラソンにたとえれば、落伍することなく完走することは順位よりも重要であり、学位とはその完走の証なのではないでしょうか。

「博士」というタイトルは、日本では日常会話の中ではあまり使われません。ある人に対して誰々先生と呼びかけることはあっても、誰々博士とは呼びません。しかし外国では、Dr. が非常に大きな意味を持っています。それは博士号を持つ者は一人前の研究者であるとみなされるからです。これからは皆さんも、国際学術交流の場ではDr. と呼ばれて、一人前の研究者として扱われることになりましょう。では、一人前の研究者とはどのような人なのでしょう。私は「博士」の資格を次のように考えています。

まず第一に、オリジナルペーパーを単独名で出せることです。皆さんは今までは、指導教官の指導の下に研究を行ない、大部分の方々は、指導教官と共著で論文を書かれたことでしょう。オリジナルペーパーを単独で発表するためには、オリジナルな研究課題を自ら着想するところから始まっ

て、研究を実行し、論文を書き、それがレフェリーの査読を通過して雑誌に出るところまで持って行くだけの研究能力が必要です。

次に、単独で一流のレビューペーパーが書けることです。さらに一流の国際雑誌のレフェリーになれること、いろいろな研究プロジェクトに独立の研究者として参加できることも必要な資格であると思います。

また、学問的な面でも人間的な面でも後輩を指導する能力を有することも大切であると思います。そのためには、博士の資格として学問的な成熟だけでなく人間的な成熟も必要であるといえましょう。

あるアメリカの物理化学者は、指導する学生を毎年一人しかとらなかつたといわれています。その学生が Ph. D. を取るころになると、その学生を自分の別荘に呼んで、一夏を一緒に生活して指導したのです。学位論文を書くことに対する指導をしたのはもちろんですが、それ以上に、その学生が良い学位論文を書くための基礎となる思考を実らせるために学問的なディスカッションをしたのです。その教授は、このようにして生涯、毎年一人の Ph. D. の学生を世に送り、その学生たちは一人一人が立派な研究者として活躍しました。私はこの話を知って、こういう先生もいるのかと感心し、学生の指導というこの話を思い出します。

皆さんは大学院生活で、指導教官をはじめ研究室内外の研究者の人々との間の学問的・人間的関係に悩んだ事があるかもしれません。大学院生活の日々に経験されたさまざまな事柄は、皆さんが将来指導的立場に立ったときに必ず役立つことでしょう。どんなスポーツでも、良い監督やコーチは、必ず選手時代の多様な経験を土台にしていると聞きます。

皆さんの将来には様々なことが待ち受けている  
と思いますが、「マラソンを完走できた」という  
自信を心の支えにして、何らかの分野で、願わく  
ば今日まで過してこられた分野とは異なる分野で、

本当にオリジナルな仕事を発展させていただき  
たいと思います。

どうぞ、お身体に気をつけて活躍して下さい。

(昭和63年3月29日 収録)